

令和5年度 第3回赤磐市総合教育会議議事録

- 1 開会日時 令和6年2月15日(木) 11時00分～12時00分
- 2 会議場所 赤磐市立中央図書館 多目的ホール
- 3 構成員
市長 友 實 武 則
教育長 坪 井 秀 樹
教育長 大 崎 陽 二
職務代理者
教育委員 山 本 賢 昌
教育委員 平 松 由 香
教育委員 遠 藤 益 恵
- 4 関係者
教育次長 入 矢 五和夫
教育総務課長 西 崎 雅 彦
学校教育課長 森 本 治
社会教育課長 大 月 美 佳
- 5 事務局
総合政策部長 倉 本 貴 博
秘書広報課長 小 引 千 賀
秘書広報課 主幹 藤 井 靖 子

○事務局：定刻となりましたので、これより令和5年度第3回赤磐市総合教育会議を開会します。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、市長よりごあいさつをお願ひいたします。

○友實市長：はい。失礼いたします。本日は第3回になりますけれども、赤磐市の総合教育会議ということで、特に教育委員の皆様方にお忙しい中お集まりいただきました。どうもありがとうございます。赤磐市総合教育会議として、これまで長きに渡って出席いただいていた平松委員が、総合教育会議のメンバーとしては、任期の関係で本日が最後になってこようかと思ひます。今まで本当にありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。本日の会議の進行ですけど、協議事項としては、各種事業の進捗状況ということでございますけれども、特に赤坂の小学校の統合問題、皆さんのおかげをもちまして進捗しているところでございます。看板としてはインクルーシブということで進んできております。石相小学校を統合小学校の校舎として活用していくということも、皆様のおかげで決まってきました。でもその中身についてはまだまだこれから議論を進めないといけな、そういう状況でございます。環境整備としては、新年度予算に桜が丘の山陽北小学校に使っていない給食センターがございますけど、これを解体して、そこに通級指導教室を設けて、赤坂地域のインクルーシブも含めて、赤磐市内の多様性を認め合う教育、こういったものを目指し拠点として活用していこうということで、新年度予算に計上させていただいております。そういったこともひっくるめて、本日の議題にしていければなと思っております。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。皆様方の思ひをぶつけていただいて、赤磐市政がそれに応えていくことができれば、これが市民の皆様のためになるものだと思ひています。よろしくお願ひいたします。

○事務局：ありがとうございます。それでは以降の進行につきまして、市長にお願ひいたします。

○友實市長：はい。それでは、協議の進行を務めさせていただきます。はじめに、協議事項の1番で、各種事業の進捗状況ということでございます。担当部署から説明をお願いします。

○西崎教育総務課長：はい、教育総務課、西崎です。資料の3ページをお願いします。私からは、(1)赤坂地域の魅力ある学校づくりについて、赤坂中学校区における小学校統合準備委員会の経過についてご説明をさせていただきます。第1回の赤坂中学校区における小学校統合準備委員会は、令和5年10月26日木曜日に、赤坂健康管理センターにおいて開催をいたしました。内容としましては、委員の委嘱、正副委員長選出、諮問、説明事項として、統合方針・統合準備委員会の役割について説明し、審議事項として、3校統合案・統合設置場所・部会の設置について審議をいただきました。この回での決定事項としましては、統合準備委員会委員の委嘱及び正副委員長の決定をいただいております。次に、赤坂中学校区における3つの小学校を1校に統合すること、統合準備委員会内に「学校運営」「教育課程」「地域連携」の3部会を設置することを決定いただきました。次に、第2回の統合準備委員会は、令和5年12月20日に開催し、審議事項としましては、統合設置場所、部会の設置についてご審議をいただきました。統合設置場所につきましては、第1回の準備委員会におきまして、3校の学校施設の概要や図面等をお配りし、この第2回で審議をいただく予定でございましたが、

お配りした図面だけではイメージがわからないといったご意見もいただきましたので、3つの小学校の現地見学会を行い、第3回統合準備委員会で協議することと決定をいたしております。年を明けまして、令和6年1月6日に3つの小学校の見学会を開催いたしました。そのあと、第3回の統合準備委員会は、令和6年1月30日に開催し、審議事項としましては、統合設置場所、部会の設置場所についてご審議をいただきました。この回での決定事項として、統合設置場所は石相小学校の施設とすること、3部会の所属委員の割り振りについて決定をいただきました。続きまして、資料の4ページをお願いいたします。以上、これまでの3回の統合準備委員会を開催し、決定いただきました事項について令和6年2月3日付けで、統合準備委員会委員長から、第1次答申をいただいております。以下の写しのとおりでございますが、資料の5ページをお願いいたします。改めまして、決定いただきました事項の第1次答申といたしまして、中段あたりでございますが、3校を1校に統合することとする、統合小学校の設置場所を石相小学校の施設とすることとする、統合準備委員会内に「学校運営」「教育課程」「地域連携」の部会を設置し、自然環境や地域と学校のつながり、交通事情の不安の解消等を含めたインクルーシブな学校づくりの詳細について協議することとする。この3つの答申をいただいております。また、要望事項といたしまして、当委員会におきまして出された意見を尊重すること、児童、保護者の思いを尊重した学校づくりを進めることということで、答申をいただいております。この答申を受けまして、教育委員会といたしましては、統合準備委員会からいただいた答申をもとに、今後、学校運営部会、教育課程部会、地域連携部会の各部会において、詳細を協議してまいりたいと考えております。簡単でございますが、説明は以上で終わります。

○友實市長：はい。説明がありました。ということは、今回は1次ということで、引き続いてこの3つの部会から答申をいただくことがやがてはあるということですね。2次として。

○西崎教育総務課長：はい、市長。教育総務課長西崎です。来年度からそれぞれの部会につきまして、詳細について協議してまいります。令和7年度の夏ぐらいをめどに、部会を開催してまいります。その令和7年度の夏ぐらいが最終答申ということで、まとめていただける予定でございます。

○友實市長：8年の4月から統合するっていうことになっている。ちょっとタイトじゃないか。大丈夫か。

○西崎教育総務課長：大丈夫です。

○友實市長：ということで、それを踏まえて皆さんご質問、ご意見があればお願いします。

○山本委員：教育委員の山本です。小学校の統合ということで、適正規模の学校を作りたいということで、多様な人が切磋琢磨して子どもが大きくなるということで、そういう意味では非常にいいんですけど、統合した後でもまだ1学級しかどの学年もない、もう少し規模が大きくなったほうがいいんじゃないかと思っておるんですけど、そういう意味で、さらに統合した後で、赤坂中学校も非常に生徒が減っておりまして、来年度は11人しか新1年生がないということで、正確な数字ではないかもしれませんが、もっと地域の適正規模な学校を作って、そこで切磋琢磨して大きくなっていくということに近づこうとしながら近づけない状況にあるので、小学校の統合が終わった後は、中学校と義務教育学校という形で統合を検討するという話を聞いているが、それを急

いでもらって、義務教育学校というのを赤坂の地域に作ってもらって、そこがインクルーシブ教育ということで非常に特色がある学校を作ってもらって、そこに行きたいという声が市内から色々出ると思うので、あちこちから来られるように全市学区にして、そこにインクルーシブな特色ある学校に行きたい人を迎え入れて人数を増やして適正規模に近づけるというふうな工夫をしたらいんじゃないかと思います。まだ先の話なんですけど、そういう方針で今後考えていく必要があるのかなと思うので、市長さんにも長期的な戦略を立てていただければと思います。そういう意味で、ざっくりばらんな意見交換みたいな形の話をしていただくのですが、赤坂小学校とかいう名前じゃなくて、赤磐中央小学校とかという名前にしてもらって、将来的に赤磐市全部から集まってくるような学校を目指して行って、素晴らしい特色のある、インクルーシブな特色ある学校を赤坂の地域にまずは小学校が一緒になって、中学校と一緒にって義務教育学校になっていくような戦略を考えていただけたらなというふうに思っております。それともうひとつ、小学校がなくなる地域がありますが、小学校という核がなくなるので、非常にさみしくなると、それが2年後に迫っていますから、2年後からなるべく早めに、地域の核になるような、何か小学校の跡地を利用した施設を整備していただけたら、地域の人も小学校がなくなってさみしくなるなというそういうマイナス思考からプラス思考に転向できると思うんで、そこも、あと2年間ありますけど、2年間の間に跡地利用の計画を考える地域の集まりを作るとか、そんなことをやって行ってもらえたらなと思っております。ひとつは赤磐市として国際貢献をするべく、国際交流の場みたいな施設、宿泊施設が赤磐市になくて、ホッケーの選手なんかも交流で来てもらっているんですけど、だいたい岡山市内に泊まってもらったりしているんで、そういう宿泊もできるような形の、国際交流ができるような施設をどっかにしてもらって、まあ、軽部のほうがいいと思うんですけど、ホッケー場に近しい。まあそういうのを考えてもらうといいかなと思ってみたり。あと、笹岡地域は、小学校跡地にまた学校というのもおかしいんですけど、小学校の跡地に、今度は全国から人が集まるような魅力的な小規模の学校を作るみたいな。よく離島なんかで小学生が留学というか、離島の、地域全体で学校を盛り上げて教育をするみたいなところに、東京のほうから移住してくるとか、子どもだけ里親家庭で育ててもらおうとか、そんな事例もよくニュースで聞いたりするんで。そういうふうな笹岡小学校をまた特色ある、全国から子どもが集まって、移住したい人も来てもらって、そこに住んでもらって、そこから学校に通う、そんな形の魅力ある全国的な小学校を、大きくならない前提で小規模の特色を生かして手厚い教育をしますみたいな、そういう全国から人が来るような、また移住者がそれにつれて増えていくような学校を作っていただくというか、そういう方向性もあるのかなあとと思います。それをまた検討していただければ、大変ありがたいと思っております。以上、まあ大変ざっくりばらんな意見ということなんですけれども。

○友實市長：はい。ありがとうございます。まず、私の今の山本委員のおっしゃったことに対する私が思い描くイメージといいますか、それを先にお話しさせていただき、そのあと教育委員会のほうから答えをしていただければと思うんですけど。まあ、あの、小学校、中学校区のことをおっしゃいました。実は私としては同じ意見です。赤坂の学校

区に限らず、赤磐市内、例えば山陽西小学校は、昔山陽町の時に、山陽団地の中だけを学区としていて、例えば岩田とか穂崎とかそういうところの子どもは、バスに乗ったり、歩いて西小学校を通り越して遠い山陽小学校に通っています。そういう問題、なんか違和感を感じています。それから、今の石相小学校にしても、旧山陽町の斗有とか下仁保とか上仁保、山陽小学校に来るより石相小学校のほうがはるかに近いんです。西山はスクールバスかな。バスに乗ってその山陽小学校に来てます。そういうふうなこと。それから、桜が丘だって、桜が丘西は基本的に小学校区はそれぞれ北小や東小、それから桜が丘小学校があるんですけど、中学校になったら、旧熊山町分は桜が丘東ですよ、そこは基本的に学区は磐梨中学校なんです。で、希望によって桜が丘に通学することができるという運用をしています。そういったことがあって、学区の問題は結構赤磐では根深い課題があるなと感じています。で、これを従来通りでいいじゃないという話ではないと思う。今の赤坂にしても、一つのモデルとして、かつての普通科高校がね、玉野光南と城東高校で学区という概念を破ってますね。全県1区の高校を作ったじゃないですか。両校とも岡山県立高校の中では、私から見たら大成功を収めていると思います。それと一緒にはないかもしれないが、そういう根本論から学区の考え方を正していかなければいけないのかなあと感じています。それから、跡地利用ですけども、おっしゃいますようなことはよく分かります。地域から灯が消えるという思いは理解します。そういう中で、どういう跡地利用があるか、これから議論を深めながら考えていきたい、そう思っています。今は白紙でございます。今の全国から田舎留学という制度ということでしたが、これは笹岡小学校の跡地を使わなくても、赤坂に作る統合小学校でも実現できますから。そういうことをやるかやらないのか、そういったことをひっくるめて、これから多くの方の意見を聞きながら考えていこうというふうに思います。笹岡については、笹岡にお住まいの方の、せっかくここに教育施設として校舎があるんだから、教育として何らかの形で継続してほしいと、小学校じゃなくてもそういった意見を聞いております。そういう声にも向き合っていかなければならないなあと感じていますので、今は具体的にこうしますという話ではありませんけれども、一緒に考えましょう。よろしくお願いします。

○坪井教育長：教育委員会としても、常に市長とベクトルを合わせて協議しながら進めさせていただいているというところでございます。特に新しい小学校につきましては、学区のことがございましたけれども、そういった赤磐版の、赤磐にしかないインクルーシブな学校運営ができるところを作っていくということで、当然赤坂学区の方以外でも興味のある方がおられると思いますし、ひょっとしたら、全国区というわけにはいかないかもしれませんが、興味のある方がいらっしゃるかもしれません。そういった点では、学区制については今後十分検討はさせていただきたいと思います。赤坂だけというのではなく、もう少し広げてというのも貴重なご提案だったなど、そういうふうに考えさせていただいております。それから、やっぱり3校統合に不安のあるご家庭もあると思いますので、その方々には教育委員会としてもしっかり寄り添った形で統合を迎えていけたらなあというふうに考えております。また跡地利用につきましては、今後地域住民の方の意見を十分に聞きながら考えていく必要があると思います。当然、教育委員会の中では深掘りした研究は進めてはおりますけれども、現段階では地域の

方と一緒に検討させていただきたいなと思っております。以上です。

○友實市長：他にご意見ありましたらお願いします。

○大崎委員：教育委員、大崎です。統合準備委員会の中に学校運営、教育課程、地域連携、この3つの部会ができて、それぞれ原案を作っていくということになるんでしょうけど、この統合準備委員会の人たちは、学校の先生方もおられるんでしょし、PTAの役員の方とか地域の役員さんとか、そういった方がおられるんですが、令和7年の夏までには完成と先ほど聞きましたけれども、1年経てばそのメンバーが変わってきたりするようなことがあるので、なかなかまとめていくのは難しいなと。やっぱり原案の原案じゃないですけども、そういうもとを作る学校の教員であったり、そういう専門の知識とかなければ、やっぱり原案はできなのではないかと思うんですけど、その進め方ですけども、だいたいどのような感じで考えておられますか。例えば石相小は地域連携とか、笹岡小で教育課程を考えると、それを委員の皆さんに見ていただいて修正をすとかいう感じですかね。ちょっとそのへんが分からないのですが。

○西崎教育総務課長：はい、教育総務課西崎です。ありがとうございます。3つの部会につきまして、それぞれの部会長には各小学校長の先生をあてさせていただいております。当然その各部会を進めていくにあたりまして、先ほど委員がおっしゃられたように、やっぱり資料が要りますので、そちらにつきましては、各小学校の先生方にも、勤務時間が大変ではございますけれども、素案という形で資料をいただきまして、それをそれぞれの部会にお諮りしながら協議をしていただくという格好で考えております。また設置条例の中には委員の意見の聴取ということで、委員以外の方を委員会にお招きしてご意見をお伺いするというのも規定しておりますので、そういった形で進めていきたいと考えております。

○大崎委員：はい、ありがとうございます。あと、また別になるんですけど、今山本委員さんから統合になっても数がものすごく増えて、1学年が2クラスになるようなこともないしとかいうことも言われていたんですが、石相小学校はだいたい1学年が1クラスの造りですよ。ですから、どのくらいの規模で子どもたちが楽しく勉強したり遊んだりできるのかということは色々数値みたいなのは出ているんでしょけど、もし、1学年2クラス以上が望ましいということになれば、義務教育学校ということで中学校と一緒にってというときに、やっぱり1学年が2クラスできるような校舎を作り直さないといけないと思うんで、そうするとすぐにすぐは難しいかなというふうに思いながら、山本委員のお話を聞かせていただきました。以上です。

○友實市長：はい。ほかにご意見はありますでしょうか。

○山本委員：はい。あの、非常に具体的な話になるんですが、スクールバスを笹岡・軽部から仕立てて石相小学校へ行くとなると、40～50人乗らないといけないと思うんですが、もっと小さいバスでいけるのか。大きいバスだとどこを通るか非常に難しく、石相小学校に行くのに、山口の散髪屋って分かりますか。赤坂ストアの近くの。あそこを通っていくんだったら、あそこは狭くてなかなか大きいバスは通りそうにないんですけど、たまたま最近聞いた話で、赤坂ストアが建て直しをするみたいで、あのへんをストアの人が購入したらしいんです。赤坂ストアの敷地の一部をもらって道にもらって、道を広くしたら入れると思うんで、この議論の場にふさわしくないかもしれ

ませんが、みんながいるところで話をしておくほうが情報が共有できていいかなと思って話をさせていただきました。どういうルートでスクールバスが入るかというのがちょっと気になっております。

○友實市長：その件は私も懸念していて、バスを運行することになればバスがどこを通るんだという話で、市の中でも道路部門、ちょっとその通学路のことは教育委員会を離れて、建設、道路部門、赤坂支所もひっくるめて、別ルートも含めて可能性を検討しようということで、今スタートしています。まだ答えは出ていないので、どうこう言えませんが、よろしくお願いします。

○山本委員：赤坂ストアが設計図を作ってしまうと、変更きかなくなるかもしれないので。

○友實市長：もう今から変更ききません。設計がどうこうということは存じ上げませんが、協議はしてきています。ほかには。

○平松委員：平松です。感想なんですけど、今回石相小学校に決まるってなったんですけど、その途中の話し合いのうちに、どこがいいかなかなか決まらないだろうなと私の中で思っていたんですけど、早速現地見学会を皆さんが計画されて、委員の皆さんで行って、そこがいいだろうと。やっぱり書面で見るだけでは全く分からずに、現地に行かれたということを知って、素晴らしいなと思いました。皆さんがこの統合について真剣に考えてくださっているんだなあと身をもって思いました。それと、この前青少年健全育成大会で青山先生のインクルーシブ教育の話があったので聞かせていただいたんですが、分かりやすく今回の時期とちょうど重なり、いい講演会だったなあと感想を持ちました。それと最後に、児童、保護者の思いを尊重した学校づくりを進めることというのが最後にあって、やっぱり私の中では子どもたちを思う気持ちが強いので、本当に大切に、新しい赤坂地区の小学校を作りたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

○友實市長：はい、ありがとうございます。ほかはどうでしょう。

○遠藤委員：はい、遠藤です。今回の統合にあたりまして、ハード面とソフト面の両面があるかと思うんですけど、まずはハード面を整えていくということが先行しているのかなと思っていましたけれども、先ほどから様々な方のご意見をいただきながら、ソフト面も大変早い段階から考えて充実させていくというようなことが今進んでいるんだなというような感想を受けました。特にインクルーシブ教育ということなんですけれども、この部会を作られて、特に各小学校で素案を考えて、その素案に基づいて、そのソフト面において、教育課程であったり、こういった教育を具体的にしていくのかというソフト面も早い段階から計画を立てて、それを実行していかれるんだなということを今感じました。その件に関しましては、先生方の腕の見せ所と言いますか、先生方の実現するまでの研究にも大きくかかわっていくことになりまして、先生方がインクルーシブ教育というものを共有して高めていっていただくということが、非常に大きな責務であるなということを今感じています。またそのインクルーシブ教育というのは、実現しますと、先生方が共通理解をしていなければならないということはもちろんなんですけれども、その評価の段階でもなかなか難しい問題でもあると思いますので、課題はたくさんあると思いますけれども、早い段階からやはり先生方が研究に研究を重ねて素案を作ってくださいということがまず大事なんではないかなと思います。こ

れは感想です。それから、1点お伺いしたいんですけども、交通事情の不安の解消ということがありますが、地域の方だからこそ分かる交通の事情があると思うんです。具体的にどういうことが上がっていたのか教えていただきたいです。

○西崎教育総務課長：はい、教育総務課長西崎です。はい、この意見につきましては、学校見学会の時に地区の中を車が通ったんですけども、その横断歩道を子どもが渡るという想定をしたときに、その車の速度とか、そういった部分でちょっと危ないなというようなご意見をいただきました。あと、環境整備の関係で、山本委員も言われたように、スクールバスのルートですとか、そういった部分でご意見をいただいたというところでございます。

○友實市長：よろしいでしょうか。まあ、インクルーシブ教育について先日の青山先生のお話を聞いていくと、教育課程なんかで議論はするんですけど、非常にこう、どういったらいいんでしょうか、日常的な対応についても考え方を少し変えないといけないということが大事だなあと、私は聞きました。私も一つ学んだんです。市長室で、教育委員会も含めてよく議論をします。その中で、こうしてほしいと私が言ったとき、できないと返ってきたときに、今までは「どうしてできんのんなら」と聞いていました。これからは、「どうしてできないのかなあ」と、こう聞くことにしました。ちょっと笑い話みたいですが、これがこの学校のインクルーシブの、もしかしたら基本の部分になるのかなあと考えました。だからこれは時間がかかるだろうし、これを浸透させるには、それぞれの聞く側、言う側の意識の改革も必要だなあと考えています。息の長いやり方になろうかと思えます。よろしくお願いします。ありがとうございます。では、この項についてはよろしいでしょうか。じゃあ、次の説明を事務局お願いします。

○大月社会教育課長：はい、社会教育課大月です。はい、それでは、スポーツ交流事業についてご報告いたします。資料につきましては、6ページから11ページになります。まず、6ページ、7ページ、こちらにつきましては、9月4日から7日までの4日間、カナダ代表と日本代表の男子ホッケーチームを赤磐市にお招きいたしまして、国際親善試合とスポーツ交流、学校訪問による交流を実施した様子をまとめたものになります。9月5日、6日は、熊山運動公園で国際親善試合、ホッケー教室などを実施いたしまして、4日から7日にかけては、幼稚園、小学校、中学校での給食交流やホッケー体験などを実施いたしました。新聞やニュースなどでもご紹介いただきましたけれども、「広報あかいわ」10月号やホームページでも交流の様子を報告させていただいております。資料の8ページから11ページにかけては、1月11日から14日までの4日間、女子ホッケー元カナダ代表のクリスティーン・ウィシャートさんとキャサリン・ウィリアムズさんを赤磐市にお招きいたしまして、市民とのスポーツ交流、学校や赤磐消防本部訪問等によります交流を実施した様子をまとめたものになります。13日、14日は、熊山運動公園でホッケー教室などを実施いたしまして、13日は、赤磐警察署のご協力を得まして、安全教室やクイズなども行いました。市民交流の参加者や生徒、児童の感想、各チームの選手の感想からも、スポーツを通じて、有意義な交流ができていると感じております。選手からは、また赤磐市に来たいとの声もいただいているので、今後もホッケーの普及も含めまして、交流事業を続けていくことができると考えております。3月には、詳細についてはまだ未定ですが、二

ュージーランドの選手との学校・園での交流を予定しております。また、ホッケーの交流事業につきましては、「広報あかいわ」3月号で特集される予定になっておりますので、そちらもご覧いただきたいと思います。以上です。

○友實市長：はい、ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見ご質問があったらお願いします。

○山本委員：はい、教育委員の山本です。先ほども話をさせてもらったんですけど、小学校の跡地で、軽部小学校がホッケー場まで近いんで、ぜひあそこをホッケーの選手に泊ってもらえる宿泊施設に思ったりしております。利守酒造さんが一回ホッケーの方と交流をしたみたいで、その時、稲刈りか田植えかしてもらったり、お酒をふるまったらたくさん飲んでくれたりしたと。軽部地区はそういう魅力もあったりするんで。まあ、ホッケーで来た人が泊まるだけでなく、赤磐市発の国際貢献ができるような、色々な教育をしたり色々な啓発活動をしたり、そういうための施設にして、宿泊も付けて、ホッケーで来てくれた人と交流もできる、そんなことで夢が広がるんですけど、ぜひ市長さん、考えていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○友實市長：はい、分かりました。考えます。

○山本委員：よろしくをお願いします。

○友實市長：まあ、私のこれまでの経験で少し言わせてもらうと、国際交流というのは、姉妹都市縁組をして、小学校や中学校、高校生を互いに行き来するという交流があるんですけど、それを目の当たりに見て、体のいい観光旅行かなあというような印象を持ってました。それは真の交流とは言えないかなあと思います。だから、子どもたちが何らかの文化の違いとか、生活様式の違いとか、そういった違いを感じて、そこに同じような年ごろの子どもたちと心と心の交流ができると。こういうのが本当の意味の国際交流かなあと思ってます。それを実現するためのこういった仕掛けがあるのかなっていうのを模索をしていこうというふうに思います。ひとつには、例えば国際貢献ということで、特に同じような先進国ではないけど途上国へ協力して行って、JICAなんかと一緒にあって、国際協力をして、その延長線上に交流があるっていうのなんかがいいなあと個人的には思っています。それが正しいかどうかは、これから色々な方々と協議しながら方針を出していきたいと思います。よろしくをお願いします。貴重なご意見です。これからも国際交流についてのご意見も含めて、色々ご提案ください。

○山本委員：例えばウクライナの子どもたちを呼ぶとか、ガザ地区の子どもたちを呼ぶとかして、世界中にこんな困っている人たちがいるんだということを、赤磐市内の小学校中学校の子どもたちに交流で知ってもらえれば、国際貢献の意識が高まると思うんで。そういうような施設にしていただければありがたいと思います。

○友實市長：これは、行かなきゃだめですよ。まあ、今はそういう情勢じゃありませんけども。現地の土地を踏むっていうのが本当に大事です。やがてはそういうことができるようになればいいですね。

○山本委員：ぜひ、赤磐市発のそういう国際交流をお願いしたいと思います。

○友實市長：そういう意味では何年か前に行ったスリランカ、AMD Aと一緒に子どもたちを派遣したじゃないですか。この時は私も一緒に行ったんですけど、その何年か前のスリ

ランカの内乱、内戦の銃弾が建物のそこら中に残っていた。そういうなのを実際に子どもが、中学生高校生が目当たりに見るわけです。で、今は全く平和なんだけど、かつては内乱でこういう理由で、こういう抗争が起こっていたっていうのを子どもたちにも理解できるように説明いただいたり、今はこうして平和になっているのを知ると同時に、小学校や中学校を訪ねて行って、一緒にゲームをしたり踊りをしたりキャンプファイヤーしたり、そういうのはとてもよかったです。最後の日なんか、一緒に行った子どもたちが大泣きして、帰るのがさみしいと言って、泣き止まなくて困りました。そういう交流が本当は双方にとって、国際交流という意味で一生の思い出になるんじゃないかと思います。そういうのも実現できたらいいなと思っています。ほかに何かありますか。

○大崎委員：感想も含めてですけど、東京オリンピックで、ホッケーのチームを受け入れようというときに、周りの人から、なんで野球やサッカーじゃないのか、あんまりホッケー人気ないのになあ、という声もあったんですけど、たぶん野球やサッカーなんかの競技だったらなかなか施設のほうに全日本選手が来るとか海外のチームが来るとかそういうことも絶対はないし、やっぱり東京オリンピックから今の今までこれが続いている、市長さんがこれで終わりではなく、なんとかあとをつないでくれと言っていたことを覚えているんですが、やっぱりそれがうまくいっている。特に最近子どものほうも体力のほうで不足してきています。ホッケーを通じてスポーツに親しんでもらって、大きくなってきたら自分がやりたい競技をしていくという形もできてきているのかなあという気がしますので。これから先もまたぜひ、交流のほうも続けていっていただけたらと思います。以上です。

○友實市長：そうですね、そのとおりだと思います。

○平松委員：東京オリンピックのときには、確かニュージーランドが女子選手で、カナダが男子選手だったと思うんですけど、今回この交流会でカナダの女子選手が来ていただいているので、交流が以前よりどんどん広がっているんだなというのが素晴らしいなと思って見させてもらいました。あと、ニュースで給食を一緒に食べている映像を見させていただいたんですけど、スポーツ選手にとっては食というのはとても大切で、子どもたちにとってもとても大切で、その食を通して一緒に給食を食べるのが、赤磐市の給食を食べてもらったというのが誇らしなと思って見させていただきました。これからも続いてくれたらうれしいです。

○遠藤委員：遠藤です。先ほど大崎先生もおっしゃいましたが、最初のとっかかりは小さな事業だったかもしれないですけど、こうやって職員の方もたくさん、またボランティアの方や選手の方も一生懸命こうしてバトンをつなぎながら、大きな事業として発展してきたというのが赤磐市の市民としても誇らしいなと思って、今話を聞かせていただきました。また、それから、宿泊施設という話もありましたけれども、赤磐市に宿泊施設がないということで、例えばグランピングとかも今注目されていますけれども、そういうふうな施設が将来的に赤磐の農業体験ですとか、自然を愛する赤磐のこの地域ならではの部分を取り入れながら、色んな個人事業主の方もたくさんいらっしゃいますし、例えばカフェだったりとか、色んな皆さんの思いが一つ拠点となるところに国際貢献も含めながら、そういう拠点が赤磐市内にできたら、スポーツも含めて、で

きていったらいいなと思います。

○友實市長：ありがとうございます。よろしいでしょうか。はい。では、なんかその他の項も一緒にやったような気がするんですけども、今までのこと、他のことも含めて何かありましたら、ご意見ご質問いただけたらと思います。いかがでしょうか。

○山本委員：教育委員の山本です。最初の、市長さんがあいさつの中で言われた、北小学校の給食センターの跡の通級指導教室、あそこに通うのに保護者が送り迎えしないといけないというのを聞いて、それは授業の途中で抜けて行って、また連れて帰らないといけないというのは大変という話を聞いたので、そこをうまく教職員の方が送り迎えをすとかできたらいんじゃないかと思うんですけど、そのへんはどうですか。

○友實市長：そこは教育長から語ってもらいます。

○坪井教育長：基本的な通級指導教室は保護者の方の送迎でお願いしているというところもあります。ただ、授業を抜けているという形になるかもしれませんが、決してその子にとって授業を抜けていることが不利になっているというわけではなくて、例えば図書の本の時間とかで本を読んでいる時間とか、授業がどんどん進んでいくようなところで抜けているわけではありません。基本的には、放課後に多くはさせていただいています。いわゆる他校通級の子は。自校通級の子は授業の中で時間割編成を組み替えてやっています。そのほかの学校の子どもたちについては、他校通級の子は放課後をメインにやらせてもらっているので、どうしてもそういう子はいるんですけども、なるべく保護者の負担にならないようにしております。ただまあ、教員が送迎することにつきましてはいろいろな制約等ありますので、今は保護者の方に週1回とか1月に2回とか、ちょっとご負担をお願いしているというところではあります。保護者の方も一緒に来られるといいこともあって、保護者の方も一緒にトレーニングするんですよ。子どものトレーニングと、保護者のカウンセリングと。様々な一長一短があるかもしれませんが、今の状況が保護者にとっても子どもにとっても若干の負担はあるかもしれませんが、より効果のほうがあるのではないかなと認識しております。ただ、今後できる給食センターの跡地の支援センター等につきましては、様々なそういった問題とか課題とか出てきた場合は考えていかなきゃいけないなあと、山本委員さんのご提案についても大切にしていかなければならないなというふうには思っております。現段階ではそういうふうにはやっております。以上です。

○友實市長：ちょっと今の教育長の答えに僕は物足りないんですけど。基本的には教育長が言われたとおりです。でもまあ、赤磐市内広いので、場合によってはここを拠点に訪問していくということを考えないといけないと。教育長も前に言ったじゃないですか。だからそういったことが赤坂なんかには必要なことじゃないかなあとと思います。来ていただくことと、こちらから出かけていくこと。あとのケアなんかだったら、たぶん出かけていくことのほうが大事かもしれません。そういったことで考えています。よろしくをお願いします。

○山本委員：思い出しました。そういえば以前教育長さんからお聞きしました。

○坪井教育長：あともうひとつ、今新しいセンターを作るのに様々なアイデアを考えている中で、よく移動図書館みたいな感じであるじゃないですか、車の中に特別支援のグッズを積んで、その学校に訪問させていただくと。まあ、それは予算がかかることなんですけど、

移動図書館があるんだったら、同じように移動通級教室もあるなというふうなことを今相談しているところです。

○友實市長：まあ、そんなことで幅広く考えています。そうはいつでも、我々にとっても未経験の部分が多いんでね、市民の皆さん、それから教育委員の皆さんの協力、あるいは意見交換をしながら、有効に進めていかなければいけないなと思っています。よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。そのほか何かありましたら。事務局のほうはどうでしょう。

○事務局：ございません。

○友實市長：ないようでしたら、終了させていただいて、これをもちまして、令和5年度の第3回赤磐市総合教育会議を閉会といたします。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

○一同：お疲れさまでした。